

< 国内情勢 >

自民党総裁選

自民党の総裁選に4名が立候補した。29日の投開票での注目は、「一発で決まるか、決選投票になるか」となった。

優勢の河野太郎だが、過半数は制しない

米国の経済・通信の大手ブルームバーグの調査によると、**75%のエコノミストが「河野太郎勝利」**を予測しているという。野村証券が実施した調査でも、国内外の投資家の6割超が河野太郎の勝利を予測する。では、河野太郎が総裁になるのか。そうはいかないだろう。

29日に行われる**自民党総裁選は「国会議員票 382 票 + 党員・党友票 382 票」**の、合計**「764 票」**を巡る戦いである。764票の過半数**「383 票」**を獲得する者がいなければ、決選投票に持ち込まれる。決選投票は**「国会議員票 382 票 + 都道府県票 47 票」**となる。党員・党友の票より、**国会議員票がモノ**を言う。

河野太郎が一回目の投票で首位に立つ可能性は高いが、過半数を抑える可能性は低い。そうすると決選投票になるが、その場合には**「国会議員票」**の比率が格段に重要となる。

国会議員票は岸田文雄が優勢

国会議員票（382票）の行方はどうなるのか。

新聞社各紙とも**「現在、熾烈な獲得戦を展開しており、河野・岸田・高市の3氏が横並び。岸田がややリードしている模様」**といった観測が多い。産経新聞の報道では**「岸田は宏池会（岸田派）46人を固め、清和会（細田派 96人）・麻生派（53人）・竹下派（51人）のベテラン議員に浸透。17日の出陣式には107人が出席。安定感を重視する参院議員の間に岸田氏を支持する動きが強まっている」**としている。

これに対して河野太郎は「菅義偉現政権の中樞幹部や世代交代を求める若手が支持、石破茂や小泉進次郎の支援を受け、17日の出陣式には約80名が出席」。

また高市早苗については「安倍晋三が支持する影響は大きく、細田派（清和会96人）の7割から支持を受ける。17日の出陣式には93人が出席。19日には福田朋美（元防衛相）が高市支持を表明」としている。

マスコミ各紙は野田聖子の支持は広まっていないと観測している。

共同通信社の調査でも、党员・党友の半数が河野太郎支持に動いていることが理解出来る。河野太郎の一位は、かなり可能性が高くなっている。しかし河野太郎が一回目で過半数を取る可能性は、今の時点では低い。すると考えられるのは、「1位・河野太郎と2位との決選投票」である。では2位には誰が来るのか。

露骨な「高市早苗外し」

18日に行われた自民党総裁選の候補者討論会には、立候補した4名が揃った。討論会終了後の質問では河野太郎に対する質問が圧倒的だった。対照的に高市早苗は発言する機会が少なかった。

ジャーナリストの門田隆将氏はこれに対し怒りを込めたツイートを行っている。

「出陣式の出席人数まで改竄して“河野上げ、高市下げ”を続けるNHKも真っ青の日本記者クラブ候補者討論会が行われた。なんと対中国、対韓国、また憲法という重要問題に対し発言を許されたのは河野太郎氏と岸田文雄氏だけ。こんな公平性欠如の偏向運営による討論会は必要ない。次回からなくして頂きたい」

安倍晋三路線を継承する高市早苗に対する批判は強い。今回の自民党総裁選は「安倍継承の高市か、反安倍の河野か」といった感が強かったが、高市は予想外の敵から叩かれている可能性が出てきた。ネットなどの情報筋は、「高市外しは在日勢力が工作している」「安倍政治を許さないという在日の強力な圧力」としているが、果たしてそうだろうか。

総裁選が決選投票に持ち込まれる可能性が高いことは誰の目にも明らか。その場合「1位・河野太郎と2位の争い」となる。2位は誰か。岸田と高市が競っているのが現状だ。そして現実には、2位候補が決選投票で勝利する可能性は高い。

なぜか。決選投票では2位と3位が合流すると思われるからだ。さらに決選投票では、野田聖子に投票したグループが微妙な決定力を持つ可能性も出てくる。

いずれにしても今回の場合、2位候補者が決選投票を制する可能性が高い。

高市に対する攻撃は、高市を蹴落として2位になろうとする工作の可能性も否定できない。

中韓はどう考えているか

今回の自民党総裁選に関し、中国や韓国は熱く注目している。韓国紙『毎日経済』は、「**冷え込んだ韓日関係に新しい風が吹くことになる**」と新総裁誕生に期待を高める。韓国では河野太郎・岸田文雄の両氏を「**比較的どちらかという韓国に理解のある人物**」として、この二人を同等に扱っている。当然だろうが高市早苗に対する論評は厳しく、そして少ない。野田聖子も論外のようなだ。韓国では来年3月に大統領選が行われる。韓国国民は韓国の新大統領、日本の新首相が日韓関係を好転させることに期待を寄せている。

中国での人気は圧倒的に河野太郎だ。もちろん野田聖子の評価は高いが、どうやら中国でも野田聖子総裁の芽はまったくないと考えられているようだ。

18日の候補者討論会（前述）が終わると同時に、中国のネット上機関紙『環球網』は「**河野太郎、中国とは定期的に首脳会談を行うべきと発言**」と報道し、河野太郎を特別扱い。中国が河野太郎に期待しているところは明らかだ。日本の「**反中国**」派の一部右翼が河野太郎総裁に反対しているのは、こんなところに理由がある。（河野太郎の父、河野洋平が役員をやっている日本端子が、中国と深い関係にあることも河野太郎に反対する理由の一因となっている。）

また中国では、岸田文雄に対しても期待するところがあるようだ。岸田の親分格だった宏池会の古賀誠は中国政界とのパイプが強く、岸田がそれを受け継いでいる。さらに岸田は中国の王毅外相とは深い関係にあり、日本語ペラペラの王毅外相と二人だけで密談を重ねたことはマスコミなどにも知られる。

だが古賀誠から受け継いだ中国人脈も、王毅外相も、習近平の上海閥や太子党ではなく「**共青团**」（中国共産主義青年団＝胡錦濤や李克強などが所属）である点は、現在の習近平体制から敬遠される可能性もある。

「回転ドア首相」が続々登場か

隣国である中国や韓国が、自民党総裁選に熱い視線を送っていることは確かだが、欧米その他諸国はあまり注目していない。欧米の多くのメディアは、総裁選が行われることも報道していない。米ブルームバーグは「**河野太郎勝利を予想**」

としているが、英ガーディアン紙は「**首相が代わっても日本の政治危機は解決しない**」と冷ややか。これが世界中の多くの見方だと考えていいだろう。

世界の政治マスコミは「**日本の首相はこれから当分は『回転ドア』のように目まぐるしく交代が続く**」と見ており、新総裁・新首相に期待などしていない。安倍晋三・麻生太郎が動かしてきた自民党は間違いなく変わる。だがそれは自民党新時代の幕開けになりそうもない。

戦後日本をリードしてきた自民党が、その歴史的使命を終えているのに殻を破ることなく、旧態依然の権力機構を維持している最大の問題点は、自民党内に革新のエネルギーが不足していることだ。ぬるま湯に浸かったままの政治家しかいないからだ。せめて保守勢力が大合同するとか、あるいは自民党を割って出る強烈な保守政治家がいれば、日本の景色も変わっていくだろうが。

さらに大問題は、野党がだらしないことだ。自民党では安倍・麻生の代は終わる。時間の経過から考えて、それは当然だ。ところが野党では未だに立憲民主党の枝野幸男が主導力を握っている。与党の政策に反対を続けるだけで、9年も野党の顔を続けているところに問題があることを野党自身が気づいていない。

11月に行われる総選挙に向けて、野党は新たな姿勢を見せる必要があるのではないだろうか。最近、**鳩山由紀夫**（民主党時代の首相）が面白いツイートを発信していた。「**言い得て妙**」といった内容なので、ご紹介しておこう。

「**困難にぶつかると自民党は情で繋がり、激しい勢力争いは表に出さず、総裁選でも仲間の悪口は極力避けるので国民に安心感を与える。一方、民主党は困難が生じたとき、アイツが悪いと仲間割れが生じて内ゲバが発生した。身内を収められなければ国民を収められるはずもないと国民は見抜いたのだ。**」

自民党総裁選は、9月22日時点では「**1位・河野太郎。岸田文雄が決選投票を勝ち抜いて総裁に**」と予測できる。しかし、最初の投票で河野太郎が過半数を制する可能性は、まだ残っている。さらに、**2位に岸田文雄ではなく高市早苗が浮上**する可能性もゼロではない。直前まで予断を許さない「**熾烈な票取り戦**」が続くものと考えられる。■